

平成27年度花巻市地域自治推進委員会（第1回）【記録】

日 時 平成27年8月25日（火）午前10時00分～11時50分

場 所 花巻市役所本庁舎3階 302会議室

出席者 委員 9名（岩淵会長、川村副会長、佐藤委員、小野委員、小原委員、古川委員、高橋委員、坂本委員、福盛田委員）

※欠席委員：久保田委員、熊谷委員、齊藤委員

事務局5名（八重樫総合政策部長、久保田地域づくり課長、佐々木地域振興係長、松田上席主任、幅下主事）

説明者2名（伊藤秘書政策課長、佐々木地域振興係長）

内 容 1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

（1）合併の検証について

（2）（仮称）花巻市人口ビジョン（素案）について

（3）（仮称）花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

4 閉 会

久保田地域づくり課長 ただ今より、平成27年度第1回花巻市自治推進委員会を開会いたします。開会にあたりまして花巻市総合政策部長よりごあいさつ申し上げます。

八重樫総合政策部長 おはようございます。皆様には日頃から市政の推進にご指導ご協力いただいておりますことに、感謝申し上げます。

昨年から人口減少問題がクローズアップされておりますが、国では昨年12月に人口ビジョンと総合戦略が閣議決定され、我が国の人口が東京一極集中にならないように、地方に分散させながら地域の活性化を図り、さらに素晴らしい日本にしていこうと進めているところです。この推進にあたっては地方も一緒に取り組もうということで、花巻市も昨年度から花巻市の将来の人口がどう推移していくのかシュミレーションしており、現在も10万人を切った状況でありますけれども、さらに8万人、7万人、6万人台と推移していくことが見えてまいりました。こうしたことから、花巻市の地方版総合戦略や人口ビジョンの作成に現在取り組んでいるところでございますが、本日の協議においても、“人口ビジョン”と“まち・ひと・しごと総合戦略”の素案について、委員の皆さんに説明させていただき、ご意見をいただきたいと思っております。

また、平成18年1月1日に新市となりましてから来年の1月1日をもって10年となり、旧3町、大迫、石鳥谷、東和地域においては、合併前にいろいろと懸念される事項もあったことから、この際に合併について検証すべきというご提言が市議会からもありました。旧3町区域の地域協議会においても、合併の検証が進められておりますが、当自治推進委員会おきまして、花巻地域における合併についての振り返りをしようということで、まずは皆さんから感想的なもので構わないので、色々お話をいただきたいと思いますと思っております。

今年度も後半戦となりますが、引き続き市政にご指導いただきますよう、お願い

申し上げまして、開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。今日はよろしくお願いたします。

久保田地域づくり課長 本委員会会長の岩渕満智子会長よりごあいさつを申し上げます。

岩渕会長 おはようございます。本日は平成27年度1回目の自治推進委員会ということでお忙しい中ありがとうございます。限られた時間ですので、時間を有効に使って皆さんからご意見をいただければと思います。

久保田地域づくり課長 それでは、本日の議事に入らせていただきます。花巻市自治推進委員会条例第4条第2項によりまして、議長は会長にお願いしたいと思います。岩渕会長、よろしくお願いたします。

岩渕会長 本日協議いただく案件は3件です。それぞれ担当課から説明をいただいた後にその都度皆さんからご意見をいただきたいと思っております。皆さんには事前に資料をお配りしておりますので、予め目を通していただいているかとは思いますが、説明を聞いた後に感想や意見をいただきます。はじめに合併の検証ということで、担当の地域づくり課から説明をお願いたします。

佐々木地域振興係長 「協議（1） 市町村合併の検証について」 説明

岩渕会長 ありがとうございます。合併前に合併により期待される効果や懸念される事項として挙げられていた事項等について説明いただきましたが、合併後の花巻を見て感じる事等、声に出していただければと思います。

小野委員 説明のありました資料の中には、合併によって懸念される事項の一つとして、地域固有の伝統や文化、地域の個性が失われないかとありますが、今はむしろ、そういうものを大事にしよう、今まで埋もれていたものを復活させようという気持ちが高まっているように感じています。小さな子どもたちに伝承する行事や、学校教育の場において取り入れられていることも見られるので、こうした懸念はなくなっていると思います。

岩渕会長 ありがとうございます。他に資料を見て何か感じていらっしゃいませんか。

古川委員 合併時にコミュニティ会議が立ち上がったわけですが、これがなかなか住民に周知徹底されなかったと申しますか、目的が理解されなかったのですが、地域独自の行事として、例えば矢沢地域伝統芸能伝承大会等が開催され、子どもたちがこれに参加することによって伝統芸能が引き継がれていくことになったと思います。コミュニティのあり方が今までのままでよいのかは難しい点もあると思いま

すが、そういう点ではよかったかと思えます。

また、一つの例として、この前の地震で“花巻市震度5強”とテレビで報道されましたが、よく聞いたら大迫地区の一部のみの震度だったということもありまして、もう少しやり方があったのではないかと感じました。

さらに、資料では働く場の確保や就職等が一番の問題点としてクローズアップされていますが、これが合併によってどう変わったのか、うまくいっているのかどうか私には見えてこない、わからない。実際にうまくいっているところはあるかもしれませんが、そう感じておりました。

岩淵会長

皆さんからいろんなご意見を出していただいて、担当からお答えしていただくことにします。

小原委員

懸念される事項として、中心部と周辺部の地域格差が挙げられていますが、極めて漠然としており、どのようなことに地域格差が生じているのか具体的に挙げてみないと議論にならないと思います。いずれにせよ、市の中心部でも人口減少が非常に大きな問題となっており、私は行政区長の立場で申し上げますが、例えば大通二丁目には60世帯ありますが、空き家になっているのが9世帯あります。全体の15%です。中心部でも、いわゆる限界集落というか、限界自治会というような大変な状況なのです。これは後に協議される案件と大きく関係してくると思いますが、そういうことが具体的に表れてきています。

岩淵会長

人口減少と空き家の問題はどこも大変ですね。福盛田さん、どうですか。

福盛田委員

当時は公共料金の値上げが一番心配されていたかと思えます。下水道や上水道等の公共料金は負担額がそれぞれ違いましたので、そういうところが心配されていたかと思えます。また、住民へのサービスの低下も懸念されたところでした。合併した当時は、合併しても何も良いことがないという話はよく聞かれました。また、市議会議員の数が減るというところは、今は市議会議員に依頼していろんな仕事をするということはないので、あまり身近に考えていない。昔だと力関係で道路整備等をやってもらったかあったのですが、今はコミュニティ会議に要望して対応してもらっているので、その辺は感じない。だから、議員定数を減らしても感じないかなと思っていました。

坂本委員

10年前と変わってないなあと感じていますが、やはり不満は働く場所が少ないことです。私は学童保育にも関わっていますが、北上市を勤務先とする保護者が多くなってきているようで、そのためか迎えが遅くなるということもあるようです。花巻市に働く場所がもっとあったら違ったかもしれません。やはり働く場所がなければ生活できないわけですから。

また、買い物も街中ではすごく不便です。特に食料品が不便でして、だあすこさんが花城食彩館の中にありましたが4月1日から撤退してしまって、魚屋さん和其他の方達で続けておられますが、それでも品数が少なくなり、さっぱり買うものがないという声が聞かれます。何故だあすこさんが無くなったのかなとも思いま

すし、もう少し頑張っただけという声はすごく多く聞かれました。シャッター通りも多くなっていますし、商業振興もますます大変かと思いますが、イベントの時だけ賑わいを見せても、それは本当のまちではないと思うのです。歩いて買い物をしている人たちが本当に少ないです。空き店舗をどうするか、商業の振興とか働く場所の確保、誘致企業とかいうことは早急な問題じゃないかと思えます。そういうことが解決されれば、活気を取り戻すことができるでしょうし、若い世代も住むのではないかと思えます。働く場所がないのが一番よくないことと考えています。

それと、合併に期待される効果というところで、広域的日常生活における利便性の向上ということが挙げられていますが、これについては良いところがたくさんあると思えます。例えば（市内に4つある）市立図書館で借りた本を、借りたところとは別の図書館に返してもいいことになっていきますし、自分の近くの図書館になくても（別の図書館があれば）本を取り寄せてくれますので、そういう利便性はあると思えます。それから、イベントも増えたと感じています。東和のイベントに行くことが10年前よりは多くなりましたし、身近になったと思えます。

岩淵会長

商店街の活性化の話が出ました。佐藤委員からお話いただけますか。

佐藤委員

商業の振興は10年前から問題になっています。その中で中心商店街のことで、最近また郊外に大型ショッピングセンターがオープンしたことで、ますます小さな商店は厳しくなってきたと感じています。また、中心市街地にあった県立高校や県立病院が郊外や市外に移転してしまいました。人口減少の件では、特に上町とか中心部の定住人口が顕著に減っていますので、ますます中心市街地、商店街が衰退していくことになろうかと思えます。商店街でもいろいろ検討はしていますが、なかなか盛り上がらないというのが現状のようです。いろいろとイベント等を実施していますが、その時はたくさんの方に来ていただけますが、日常は閑散としている状態です。特に中心部に住む方は高齢者が多いのですが、買い物に行く場所、特に食料品の買い物場所がないので、買い物難民の話も聞かれるところであり、非常に危惧しています。市も立地適正化計画とか市街地再生に取り組まれるようですが、商業施設だけでは難しいので、公共施設も立地していただきながら環境づくりを進めていただきたいと思います。なお、各商店街でも利便性の向上のため、例えば街路灯のLED化ですとか、安心安全のまちづくりに取り組んでおりますので、その辺はご理解いただきたいと思います。それから、合併において期待される効果ということで、県央の拠点都市として地域の総合力が向上されるのではないかとことが挙げられていますが、花巻市は公共交通が整っておりますし、岩手県内の他市と比べますと利便性が高く、定住人口減少といいますが、観光やスポーツ大会の開催によって交流人口も増やしながら、まちの活性化を図ることも必要ではないかと思っています。

さらに、先ほど地域固有の伝統や文化、地域の個性が失われるのではないかとの話がありましたが、私もむしろ以前に比べて、各地域の方々が地域固有の伝統や文化を大事にしようという気持ちが強まってきているように思いますので、それぞれ4地域の特性を生かしながら進めていけばよいと思います。

高橋委員

このアンケートが実施されてから10年が経っていますので、今の状態もアンケートしてみないとわからないのかもしれませんが、ずいぶん不満だらけだったのだなと驚いております。例えばコミュニティに対しての考え方をみると、回答のない東和町を除いて不満が多く出されておりますが、コミュニティというのは地域をみんなで良くしていこうということですから、(コミュニティ会議に関しては)考え方としてはいいことだったと思います。しかし、区長会等で話をしておりますと、地域によっては(交付金の)無駄遣いをしているところもあるのではないかという意見もあるのです。無駄遣いとは具体的に何を指しているのかわかりませんが、地域住民の税金をもう少し考えながら使ったほうがいいのではないかという意見が意外と多い。一生懸命に活動をしているところもあるのですが、こうした声がある以上は、効率的な使われ方をするように市もきちんとチェックしていくべきと考えます。

また、働く場所のことについては、後藤野工業団地に通う車がものすごく多いです。働く場所があるということは本当に大事なことです。笹間地区の場合、工業団地にイオンさんが入りましたが、笹間の人は働いておらず、他の地域から採用されているようです。農業は大変なので、農業以外の仕事を求めているのかなと思っていますが、せっかく作った笹間の工業団地ですので、今考えるともう少し若い人に魅力のある会社を誘致してくればよかったかという反省はあります。合併をするといろんな不満はあると思いますが、市民からいろんな意見を聞いて市長を先頭に解決していくことで、地域だけに対応させる問題ではないと思います。

川村委員

農業に対しては不満がピーク、若しくは諦めしか出てこないといったのが合併して10年たった今の状況です。資料によれば、上水道の提供については満足しているとされていますが、ご存じのとおり豊沢ダムは本来、農業用水の確保を目的としておりましたが、今は他の用途にも活用されているところでして、1年間で水が2回転半している状況です。岩手県内の他のダムは春先に1回貯めると1年間は持つというのが一般的なようですが、豊沢ダムは2回転半するのです。今年は6月末から2週間、農業用水が断水になりました。稲作だからいいだろうとも言われますが、今の農家は経営規模も大きくなってきており、田植えに1か月間を要するところもあるのです。それで、その時期に農業用水の確保に悩むのです。予算が付いてダムを改修すると言っていますが、せめて1回転半くらいで収まるようなダムが欲しいなと思います。水の便ということももう少し考えてもらいたいと思います。

岩淵会長

アンケートを見て共通しているのが働く場の確保についてですね。合併の検証について、他に言うておこうということがあれば出していただきたいと思います。もしなければ後でということにしまして。行政から何かあれば、お話をお願いしたいと思います。

八重樫総合政

ありがとうございました。合併の検証ということで皆様から意見をいただきました

たが、1件ごとにお答えするというのではなく全体的なことをお話しさせていただきたいと思います。今いただいたご意見が全て合併したからそういう状況かということ、そうではないのだろうと思います。社会・経済情勢、農業情勢の問題等いろいろありますので、今、申し上げられることとお話ししたいと思います。合併に際しては、1市3町の議員の代表や民間団体の代表等からなる合併協議会が立ち上げられ、この中で協定項目を一つずつ検証し協定書に盛り込まれたところでございます。こうした中で、固有の文化等が失われることが懸念されたところですが、先ほど小野委員も話されましたとおり、私もそうはならなかったと思っております。特に大迫の早池峰神楽はユネスコ世界遺産ということで、合併後に指定にされましたし、それを大事にしていこう、全国に、世界に発信しようという取り組みになりましたことから、プラス要素が大きかったと思っております。また、地域づくりの観点ではコミュニティ会議を立ち上げました。当初は26か所、その後に花巻の中央地区を花西と分けまして今は27のコミュニティ会議で運営しておりますが、地域づくりを行政と地域が一緒になって進めてまいりました。先ほどお話がありましたが、地域づくり交付金として地域に4百万円から1千2百万円ほど、総額にして2億円を交付させていただいております。市は現在、コミュニティ会議の皆さんと市が直接協議する場を設けて、交付金の使い方やあり方を含め、これからの地域づくりについて議論しております。これについては、来年度以降も続けてまいります。特にお金の使い方については、地域のためにどのように活用されているかを市民にお知らせする必要があると考えており、それぞれコミュニティ会議や振興センターでの広報に加えて、今回から決算だけでなく活動の状況等も市のHPや広報で特集してお知らせしていこうという取り組みを進めています。これをみて、またご意見をいただければと思います。コミュニティ会議の交付金の使途の傾向としては、立ち上げ当初は道路の補修や側溝の蓋掛け等、ハード事業に多く活用されてきましたが、年々ハード事業が減ってきている状況であり、地区によっては半分程度に減ってきています。従って、これからは総額2億円でいいのかということも含め、使い方について皆さんと話し合っていこうと考えております。特にこれから高齢化が進んでいきますので、介護の方で地域包括支援、地域の中で助け合う仕組みを作っていこうという取り組みですので、これからの地域づくりのひとつの施策として取り組んでいかなければならないと思っております。

また、働く場の確保という話がありましたが、その通りだと思います。冒頭にお話ししましたが、地方版の総合戦略の中でも、一番に挙げられるのが仕事の場の確保、雇用です。企業誘致については、第一工業団地、第二工業団地、そして流通団地に企業が定着しております。現在、市では工業団地、流通団地の拡張を含め新たに誘致する場所の確保を検討している状況です。

子育ての関係では、婚活や子育て支援対策もいろいろ講じております。広報や新聞等でもお知らせしておりますが、子どもの医療費無料化やインフルエンザ予防接種の無料化等積極的に取り組んでおります。また、県南広域の自治体が連携し、空港や主要な高速の要所がある中で広域的に取り組んでいくことですので、県内から花巻に人を集めるのではなく、首都圏、大都市圏から人を呼び込む取り組みをしなければならないと思っております。

最近の目玉としては、地域おこし協力隊という取り組み、これは後ほど秘書企画課長から総合戦略の説明をいたしますが、協力隊員は市の職員として3年間雇用するものでして、今月までに3人来ていただいておりますし、今年度中には5人体制、来年度の4月にはあと2人加わりますので7人体制となる見込みです。商店街の問題は、花巻市には4つの中心市街地があるとの考え方からまちづくりを進めてまいります。家守舎の取り組み等、若い人たちの発想で金融業界や経済業界、行政が後押しできるような取り組みをしていこうというもので、勉強しながら頑張っているところで、皆さんからも引き続きご意見を頂きたいと思えます。

最後に防災についてですが、古川委員から震度についてお話がありました。5月13日、震度5強が市内で観測されました。すぐに市の対策本部を立ち上げ、情報収集をしました。確かに大迫に2か所ある震度計のうち1か所が震度5強を観測しましたが、ほかの震度計は全部震度4でした。それほど大きな被害にはなりません。また、防災対策については、特に東日本大震災以降の課題となっている、自主防災組織の立ち上げ等にも力を入れていることをご報告させていただきます。

岩淵会長 ありがとうございました。合併の検証で、時々こういう資料を貰えばこそ振り返りますけれども、普段はあまり思うことはなかったのが大事なことと思います。

福盛田委員 アンケート調査ですが、各委員からも出ましたが、もう少し直前のアンケートを取ってもらい、それを元に検証できればと思います。

八重樫総合政策部長 福盛田委員から新しくアンケートをとのお話をいただきました。合併以来、ある程度固定した市民を対象にした市民アンケートを毎年実施しています。今回お示した資料と全く同じ項目ではないのですが、それを整理して資料提供させていただきます。市民アンケートの項目については毎年見直しをしております。市民アンケートは同じ対象、内容で経年の変化を見るという趣旨もありますので、この合併前アンケートの項目を加える方法がないか検討させていただきます。

岩淵会長 次に花巻市人口ビジョンにつきまして、秘書政策課から説明をお願いします。

伊藤秘書政策課長 「協議（2）（仮称）花巻市人口ビジョン（素案）について」及び「協議（3）（仮称）花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について」説明

岩淵会長 ありがとうございました。中身の濃い内容で、現状からシミュレーションして説明していただきました。皆さんからは、説明を聞いて何かあれば出していただければと思います。まず、私からお聞きいたしますが、定住促進について具体的に

花巻市ではどの程度の動きがあるのでしょうか。

伊藤秘書政策課長 まず、当課で直接行っております空き家バンクという制度です。固定資産税の賦課通知に併せて、市外に住んでいる方々には「空き家バンクをやっています。空き家を持っている方は登録ください」という通知を出しました。市内の方には広報でお知らせしています。最初は登録をしたいという話が60件から70件ほどありました。ただ、実際に建物を見ると住まいには適さないものもあり、現在ホームページでは15件ほどの物件を出していますが、これから少しずつ増やしていきたいと考えています。これまでに成約したのが2件ありましたほか、問い合わせは毎日1件から2件ほどあります。今までの花巻市では、こういう外向けに移住者を募ったことがなかったものですから、これからどうやって認知していただけるか、特に、花巻の方々はもちろんのこと、首都圏等の方々にどう周知できるかということで、向こうでのイベント開催等も考えています。

岩淵会長 私の住んでいる地区でも空き家があり問題になっておりまして、県外にいる方が空き家を探しておりました際に、花巻市の空き家バンクを教えてあげましたら大変喜んでおられました。詳しく知りたいとのことでしたので、市の広報誌を送りましたら非常に助かる、うれしいとお電話をいただきまして、そういう方が増えるといいなと思いました。

伊藤秘書政策課長 移住される方が増えることだけでなく、空き家が解消されることもひとつです。

福盛田委員 私も5年ほど前に都会から田舎に住みたいと相談され、市役所に問い合わせたところないと言われ、当時は東和町が積極的にやっていたので、東和町を紹介しました。人口をどうこうするとか、魅力あるまちをつくりたいのであれば、全国から花巻に住んでみたくなる、いい街だなと感じさせなければならぬわけで、花巻に来てシャッター通りが多いとかいうところがネック、マイナス要因になっているのだと思います。また、私のところに子育てのことで相談に来ている方がいるのですが、幼児の保育ですね、産休期間も終わるので預けたいのに、今は30人ほどの待機児童がいるので受けられないと言われ、それで仕事に就きたくても就くことができないとの相談を受けています。子どもを増やすのであれば、そういったところの支援が一番ではないかなと思います。そして、昨日の新聞ですが、結婚をしても子どもを持たないと考えている人が10%もいるとのこと。そういうところも心配しています。

小原委員 高齢化で空き家も増えてくると思います。先ほど固定資産税の話がされましたが、各コミュニティの組織力、情報量が弱くなっています。市役所でも空き家の情報や住みたい人の情報を集められるでしょうが、実際に提供できる情報となると、各コミュニティの情報に頼らざるを得ないということも多いでしょう。業者が中に入っている物件は貸す準備ができていますから決めやすいでしょうが、それ以外は民間から空き家の情報を集めても、本当に空き家なのかどうかの確認が

難しいと思います。固定資産税をきちんと納めているかということや、ときどき掃除しているのかといったことをわからずに、コミュニティの人が空き家だと市役所に届け出ていると、所有者から怒られるケースも出てくると思います。その点を慎重にお考えいただきたいです。

坂本委員 今、里帰り出産ができない状況だということです。要するに産婦人科が少ない。そうすると子どもを産むどころの話じゃないということなのです。
また、富士大生が喜んでここに住みたいというまちを作らないと、よそから若い人が来ることは少ないのかなと思います。4年間住んで、住むのが便利だなと思ったらここに留まることも視野に入ると思います。4年間だけここに住んで、よそに就職してしまうというのは勿体ないと思います。

伊藤秘書政策 この前、富士大を卒業して上町で八百屋さんをしている方とお話ししましたが、課長 その方はたまたま大学生の時に地域の人と関わってこういうことを選んだので、大学生と地域の方々が触れ合うようなチャンス、機会がもう少しあればもっと花巻に愛着を持ち、結果として残るのではないかというお話もいただきました。

岩淵会長 そういう機会としては、今はお祭りの山車のアルバイトくらいですよ。そうすると女の子たちは喜びますし、男の子たちも活気がでるのですが、何日間だけなので勿体ないです。

小原委員 私の知る限りでは、20年位前から富士大の学生が北上にアパートを借りるようになったのです。その理由は、アルバイト先です。花巻への愛着ということには、そういうことも関係していると思います。

岩淵会長 ありがとうございます。まだまだご意見はあろうかと思いますが、時間の関係で、人口ビジョン等についてはこれでよろしいでしょうか。

伊藤秘書政策 この機会でなくても結構ですので、こういうのはどうだということがあれば、秘書政策課にご連絡いただければと思います。よろしくをお願いします。課長

岩淵会長 何か、皆さんからありませんでしょうか。事務局から何かありますか。

久保田地域づくり課長 1点目の合併の検証について、今日は旧花巻エリアでのお話をいただきました。花巻以外の旧3町には合併時に地域自治区が設置され、地域協議会というこれを代表する会があり、ここにおいて合併の検証について東和と石鳥谷でも行われておりますし、大迫も今週中に行われることになっています。意見を並べると、おそらく旧3町エリアでは花巻とは違う観点が出てくるのではないかと思いますので、そういった部分で全体として取り組まなければならないことや地域ごとに考えなければならないことを検証してまいりたいと思います。それから、秘書政

策課が説明いたしました人口ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、まだまだご意見を頂戴しながら、皆さんと作っていくものだと思いますので、ご意見はどんどん秘書政策課、あるいは地域づくり課でも結構ですのでおっしゃっていただきたいと思います。

岩淵会長

それでは委員会を終わります。今日は、全ての委員の皆さんにご発言いただきました。本当に感謝しております。ありがとうございました。